

建経技第516号  
令和4年3月29日

本庁各課長及び各出先機関の長様

技術調査課長

### 建設関連業務委託における適正な履行期間の設定について

建設関連業務の履行期間については、これまでも業務の履行に必要な日数を考慮して設定してきたところですが、労働基準法に基づき罰則付き時間外労働規制が適用されたことから、週休2日の確保を前提として、業務の内容、規模、方法、不稼働日、地域の実情等を踏まえた適正な履行期間を設定する必要があります。

については、設計業務等標準積算基準書の履行期間の算定方法を参考に、履行期間設定実施要領等を下記のとおり定めましたので通知します。

### 記

#### 1 実施資料

- ・ 履行期間設定実施要領
- ・ 履行期間算定一覧表

#### 2 適用

令和4年4月1日以降に設計積算する測量、地質調査、土木設計業務等

#### 3 その他

- ・ 令和4年度は試行期間とし、各発注機関発注担当課の対象業務で1人1件以上実施
- ・ 令和5年4月から本格施行とし、全ての対象業務で実施

担当：技術調査班 山崎  
電話：054-221-2148

## 履行期間設定実施要領

### (目的)

第1条 本要領は、静岡県が発注する測量、地質調査、土木設計業務（「設計業務等標準積算基準書」に基づき積算を行う業務）において履行期間の設定を行うための必要事項を定め、建設関連業務における働き方改革に配慮した適正な履行期間の設定を行うことを目的とする。

### (適用範囲)

第2条 本要領は、静岡県交通基盤部が発注する測量、地質調査、土木設計業務等に適用する。

### (用語の定義)

第3条 用語について以下のとおり定める。

#### 【履行期間】

業務委託の始期から終期までの期間のことで、準備期間、作業期間、納品期間、その他業務履行上必要な日数を加算した合計をいう。

#### 【準備期間】

契約締結から着手までの期間をいう。この場合において、着手とは業務代理人又は管理技術者が業務の実施のため監督員との打合せを行うことをいう。15日を標準日数とする。

#### 【作業期間】

設計歩掛上の作業に要する期間をいう。（電子成果品の作成、現地踏査、照査に要する期間も含む）

#### 【納品期間】

設計図書に示す成果物を業務完了報告書とともに監督員に提出し、監督員が承認・受領するまでの期間をいう。5日を標準日数とする。

### (実施方法)

第4条

#### (1) 履行期間の設定

履行期間の設定は、準備期間・作業期間・納品期間・その他必要日数の合計日数をもとに行う。各業種別の設定方法は別紙1～3のとおり。

測量、地質調査、土木設計の標準業務に該当しない場合（見積りを要する場合は、見積り依頼時に業務履行に要する日数を確認し、これを参照した上で履行期間を設定する。

(2) 設計書への添付

履行期間算定一覧表は、設計書（金入り・金抜き）に添付することにより設計図書の一部とする。

(その他)

第5条 その他

業務途中において、業務スケジュールに関する疑義が生じた場合には速やかに受発注者間で協議し、方針を決定するものとし、必要に応じて履行期間の変更を行うこと。

附 則

この要領は令和4年4月1日から施行する。

## 測量業務

	内容	標準日数
準備期間	契約日から初回打合せ日までの日数	15日
作業期間	内業日数	必要内業日数×不稼働係数【内業】 ①必要内業日数 〔(標準作業量における技術者別内業所要日数の 最大値/標準作業量)×変化率〕×設計作業量 ②不稼働係数【内業】: 1.5
	外業日数	必要外業日数×不稼働係数【外業】 ①必要外業日数 〔(標準作業量における技術者別外業所要日数の 最大値/標準作業量)×変化率〕×設計作業量 ②不稼働係数【外業】: 1.8 (※)
	作業準備日数	10日程度 測量時の立入りに伴う地元への事前周知等の所 要日数(身分証発行等を含む)
	用地立会日数	20日程度 境界確認等、用地測量に伴う地権者との立会い が必要な場合に計上
	打合せ日数	2日 + 「中間打合せ回数」
納品期間	成果品の提出期間	5日
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果検定日数(測量成果の検定を行う機関が検定に要する日数)が必要な場合、20日程度を加算</li> <li>・ 空中写真測量の撮影運行時間及び航空レーザ測量の計測運行時間、滞留日数については別途加算</li> <li>・ 年末年始、夏季休暇が含まれる場合、その日数を加算            年末年始…12/29～1/3 6日間            夏季休暇…8/14～8/16 3日間</li> </ul>	

(※)不稼働係数は、不稼働日(土曜・日曜の休日、祝日、外業の場合は各地域の降雨日数)を基に算出した係数。外業の不稼働係数は土木工事で定められた雨休率から算出した値とする。

## 地質調査業務

	内容	標準日数
準備期間	契約日から初回打合せ日までの日数	15日
作業期間	内業日数	30日 必要内業日数×不稼働係数【内業】 ①必要内業日数：20日 ②不稼働係数【内業】：1.5
	外業日数	必要外業日数×不稼働係数【外業】 ①必要外業日数： $W_a + W_b + W_c + W_d$ $W_a$ ：機械ボーリング $\Sigma$ (1箇所当りボーリング長/1日当り標準能率) $W_b$ ：サンプリング $\Sigma$ (試料数/1日当り作業量) $W_c$ ：サウンディング及び原位置試験 $\Sigma$ (設計作業量/1日当り作業量) $W_d$ ：足場据付・解体日数 必要箇所/1日当り作業量 ②不稼働係数【外業】：1.8 (※)
	準備・跡片付け	10日
	国土地盤情報DB 検定日数	15日
	室内試験日数	10日 (室内土質試験等を含む場合に計上)
	解析等調査日数	15日 (解析等調査を含む場合に計上)
打合せ日数	2日 + 「中間打合せ回数」	
納品期間	成果品の提出期間	5日
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係機関協議、地元調整等が必要な場合、その日数を加算</li> <li>・ 年末年始、夏季休暇が含まれる場合、その日数を加算            年末年始…12/29～1/3 6日間            夏季休暇…8/14～8/16 3日間</li> </ul>	

(※)不稼働係数は、不稼働日(土曜・日曜の休日、祝日、外業の場合は各地域の降雨日数)を基に算出した係数。外業の不稼働係数は土木工事で定められた雨休率から算出した値とする。

## 土木設計業務

	内容	標準日数
準備期間	契約日から初回打合せ日までの日数	15日
作業期間	設計日数(※1)	0.04×業務価格【万円】+60日 調査・計画系業務(主に河川・砂防関係)の場合は、上記式の日数に1.3を乗じる
	設計条件確定に要する日数(※2)	0～100日 (業務内容に応じて適宜設定)
	打合せ日数	2日 + 「中間打合せ回数」
納品期間	成果品の提出期間	5日
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係機関協議、地元調整等が必要な場合、その日数を加算</li> <li>・ 関連業務の進捗状況に影響を受ける場合、その日数を加算</li> <li>・ 年末年始、夏季休暇が含まれる場合、その日数を加算 年末年始…12/29～1/3 6日間 夏季休暇…8/14～8/16 3日間</li> </ul>	

(※1)設計日数は、設計歩掛上の作業に要する日数。電子成果品作成や照査の日数もこれに含むが、設計条件確定に要する日数(※2)はこれに含まない。

(※2)設計条件確定に要する日数は、基本条件や既往成果の確認、設計条件や現地条件の整理、比較案・最適案の選定、構造協議、施工計画や仮設計画の確認等、全ての設計条件が確定するまでに受発注者間が要する日数のことをいう。業務内容に応じて適宜日数を設定する。

《例》

- ・ 検討項目が少なく、監督員の確認のみで設計条件が整理できる場合…30日
- ・ 検討項目の判断にあたり、事務所内での協議に日数を要する場合…60日
- ・ 検討項目が多岐に渡り、本庁事業課と複数回の打合せを要する場合…100日

# 履行期間の算定

建設経済局 技術調査課 技術調査班



「工事中」がみらいをつくる！どぼくってオモシロイ！  
静岡県交通基盤部



- (1) 測量業務
- (2) 地質調査業務
- (3) 土木設計業務等



「工事中」がみらいをつくる！どぼくってオモシロイ！  
静岡県交通基盤部





# 履行期間の算定（1）測量業務

## （1）測量業務

### 履行期間の算定式

$$\begin{aligned} \text{履行期間} &= \text{準備期間} + \text{作業期間} + \text{その他} + \text{納品期間} \\ &= \text{契約から初回打合せまでの日数} + \text{必要内業日数 (W1)} \times \text{不稼働係数(内業)} \\ &\quad + \text{必要外業日数 (W2)} \times \text{不稼働係数(外業)} + \text{作業準備日数} + \text{用地立会日数} \\ &\quad + \text{その他} + \text{成果品の提出から契約満了までの日数} \end{aligned}$$

項目	内容	標準日数
準備期間	契約日から初回打合せまでの日数	15
作業期間	必要内業日数×不稼働係数（内業）	W1×1.5
	必要外業日数×不稼働係数（外業）	W2×1.8
	作業準備日数	10日程度
	用地立会日数 ※必要な場合に計上	20日程度
	打合せ日数	2+「中間打合せ回数」
納品期間	成果品の提出・確認から契約満了日までの日数	5
その他	関係協議、地元調整 等	必要日数を計上
	成果検定日数	20日程度

# 履行期間の算定（1）測量業務

## 《 計算例 》

4級基準点測量（伐採あり／原野・平地／設計数量**10点**）を行う場合

### 必要内業日数（W1）

標準作業量（**35点**）における技術者別**内業**所要日数の最大値は、測量技師と測量技術補の**2.5日間**となり、原野・平地の変化率は**1.0**

$$W1 = (2.5 / 35 \times 1.0) \times 10 = 0.71日$$

### 必要外業日数（W2）

標準作業量（**35点**）における技術者別**外業**所要日数の最大値は、測量助手の**7日間**となり、原野・平地の変化率は**1.0**

$$W2 = (7 / 35 \times 1.0) \times 10 = 2.0日$$

### 4級基準点測量

標準作業量	作業工程	所要日数					内外業の別	編成					延人日数							
		測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	測量補助員		測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	測量補助員	計	測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	測量補助員	計	
新点 35点 永久標識 設置なし	作業計画	0.5	1.0	0.5			内	1	1	1			3	0.5	1.0	0.5			2.0	
	選点		2.5	2.5	2.0		外		1	1	1		3		2.5	2.5	2.0		7.0	
	伐採		0.5	0.5		0.5	外		1	1		1	3		0.5	0.5		0.5	1.5	
	観測		3.0	3.0	2.5		外		1	1	2		4		3.0	3.0	5.0		11.0	
	計算整理		0.5	1.5	2.0	1.0	内	1	1	1	1		4	0.5	1.5	2.0	1.0		5.0	
	内訳	外業計		6.0	6.0	4.5	0.5									6.0	6.0	7.0	0.5	(18.0) 19.5
		内業計	1.0	2.5	2.5	1.0								1.0	2.5	2.5	1.0			(7.0) 7.0
	合計	(1.0) 1.0	(8.0) 8.5	(8.0) 8.5	(5.5) 5.5	0.5								(1.0) 1.0	(8.0) 8.5	(8.0) 8.5	(8.0) 8.0	0.5	(25.0) 26.5	

# 履行期間の算定（2）地質調査業務

## （2）地質調査業務

### 履行期間の算定式

$$\begin{aligned} \text{履行期間} &= \text{準備期間} + \text{作業期間} + \text{その他} + \text{納品期間} \\ &= \text{契約から条件確定までの日数} + \text{必要内業日数 (W1)} \times \text{不稼働係数(内業)} \\ &\quad + \text{必要外業日数 (W2)} \times \text{不稼働係数(外業)} + \text{準備・跡片付け (外業)} + \text{室内試験日数} \\ &\quad + \text{解析等調査日数} + \text{打合せ日数} + \text{その他} + \text{成果品の提出から契約満了までの日数} \end{aligned}$$

項目	内容	標準日数
準備期間	契約日から初回打合せまでの日数	15
作業期間	必要内業日数×不稼働係数（内業）	W1×1.5
	必要外業日数×不稼働係数（外業）	W2×1.8
	準備・跡片付け（外業）	10
	国土地盤情報DB検定日数	15
	室内試験日数 ※必要な場合に計上	10
	解析等調査日数 ※必要な場合に計上	15
	打合せ日数	2+「中間打合せ回数」
納品期間	成果品の提出・確認から契約満了日までの日数	5
その他	関係協議、地元調整 等	必要日数を計上

# 履行期間の算定（２）地質調査業務

## 《 計算例 》

①機械ボーリング【土質ボーリング】（Φ66mm／砂・砂質土／10m／計5箇所）、②サンプリング、③サウンディング【標準貫入試験】（砂・砂質土）を行う場合



### 必要外業日数（W2）

①土質ボーリング（Φ66／砂・砂質土）の1日当たり標準能率は6.0m

$$W_a = (10/6) \times 5 = 8.33日$$

②シンウォールサンプリングの日当たり作業量は5本

$$W_b = 5/5 = 1.0日$$

③標準貫入試験（砂・砂質土）の日当たり作業量は10.0m

$$W_c = 50/10 = 5.0日$$

④足場仮設（平坦地足場／高さ0.3m超）の日当たり作業量（設置・撤去）は1.25箇所

$$W_d = 5/1.25 = 4.0日$$

$$W_2 = W_a + W_b + W_c + W_d = 18.33日$$

表2. 2. 2 サンプリングの日当たり作業量

種 別 ・ 規 格	単位	日当たり作業量
固定ピストン式シンウォールサンプラー （シンウォールサンプリング）	軟質な粘性土 （0 ≤ N値 ≤ 4）	本 5
ロータリー式二重管サンプラー （デニソンサンプリング）	硬質な粘性土（4 < N値）	〃 4
ロータリー式三重管サンプラー （トリプルサンプリング）	砂質土	〃 3

表2. 1. 6 土質ボーリング（ノンコア）の日当たり作業量

種 別 ・ 規 格	単位	日当たり作業量
φ 66mm	粘性土・シルト	m 7.0
	砂・砂質土	〃 6.0
	礫混じり土砂	〃 4.0
	玉石混じり土砂	〃 2.0
	固結シルト・固結粘土	〃 4.0
φ 86mm	粘性土・シルト	m 6.0
	砂・砂質土	〃 5.0
	礫混じり土砂	〃 3.0
	玉石混じり土砂	〃 2.0
	固結シルト・固結粘土	〃 4.0
φ 116mm	粘性土・シルト	m 5.0
	砂・砂質土	〃 4.0
	礫混じり土砂	〃 3.0
	玉石混じり土砂	〃 2.0
	固結シルト・固結粘土	〃 3.0

表2. 3. 3 サウンディング及び原位置試験の日当たり作業量

種 別 ・ 規 格	単位	日当たり作業量	
標準貫入試験	粘性土・シルト	回 12.0	
	砂・砂質土	〃 10.0	
	礫混じり土砂	〃 8.0	
	玉石混じり土砂	〃 7.0	
	固結シルト・固結粘土	〃 7.0	
孔内載荷試験 （プレッシャーメータ試験・ ポアホールジャッキ試験）	普通載荷（2.5MN/m <sup>2</sup> 以下） G L-50m以内	〃 3.0	
	中圧載荷（2.5～10MN/m <sup>2</sup> ） G L-50m以内	〃 2.0	
	高圧載荷（10～20MN/m <sup>2</sup> ） G L-50m以内	〃 2.0	
	現場透水試験	オーガー法 G L-10m以内	〃 2.0
		ケーシング法 G L-10m以内	〃 2.0
一重管式 G L-20m以内		〃 1.0	
二重管式 G L-20m以内	〃 1.0		
揚水法 G L-20m以内	〃 1.0		
スウェーデン式サウンディング	G L-10m以内 N値4以内	m 22.0	
機械式コーン（オランダ式 二重管コーン）貫入試験	2 0 kN G L-30m以内	〃 12.0	
	1 0 0 kN G L-30m以内	〃 11.0	
ポータブルコーン貫入試験	単管式 G L-5m以内	〃 25.0	
	二重管式 G L-5m以内	〃 15.0	

## 履行期間の算定（3）土木設計業務等

### （3）土木設計業務等

#### 履行期間の算定式

$$\begin{aligned} \text{履行期間} &= \text{準備期間} + \text{作業期間} + \text{その他} + \text{納品期間} \\ &= \text{契約から初回打合せまでの日数} + \text{設計日数} + \text{設計条件確定に要する日数} \\ &\quad + \text{打合せ日数} + \text{その他} + \text{成果品の提出から契約満了までの日数} \end{aligned}$$

項目	内容	標準日数
準備期間	契約日から初回打合せまでの日数	15
作業期間	設計日数	0.04×業務価格(万円) +60
	設計条件確定に要する日数	0～100
	打合せ日数	2+「中間打合せ回数」
納品期間	成果品の提出・確認から契約満了日までの日数	5
その他	関係協議、地元調整 等	必要日数を計上

## 履行期間の算定（3）土木設計業務等

### 《 補足 》

設計日数	<p>算定式：<math>0.04 \times \text{業務価格（万円）} + 60 \text{ 日}</math></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 調査・計画系業務（主に河川・砂防関係）の場合は、上記式の日数に<b>1.3</b>を乗じる</li><li>・ 設計歩掛上の作業に要する日数で、電子成果品作成や照査の日数もこれに含む</li></ul>
設計条件確定日数	<p><b>0～100日</b></p> <p>基本条件や既往成果の確認、設計条件や現場条件の整理、比較案・最適案の選定、構造協議、施工計画や仮設計画の検討等、<b>全ての設計条件が確定するまでに受発注者間が要する日数</b></p> <p>※業務内容に応じて適宜日数を設定</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 検討項目が少なく、監督員の確認のみで設計条件が整理できる場合…30日</li><li>・ 検討項目の判断にあたり、事務所内での協議に日数を要する場合…60日</li><li>・ 検討項目が多岐に渡り、本庁事業課と複数回の打合せを要する場合…100日</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 河川協議、警察協議、地元協議等が必要な場合はその期間を別途加算</li><li>・ 測量、地質調査、地下埋設物調査、交通量調査等を含む場合は、その期間を別途加算</li><li>・ 履行期間内に、<b>年末年始（12/29～1/3の6日間）</b>や<b>夏季休暇（8/14～8/16の3日間）</b>が含まれる場合は、その日数を別途加算する</li></ul>

### 《 計算例 》

道路詳細設計：業務価格500万円の場合

$$\text{設計日数} = 0.04 \times 500 + 60 = 80 \text{ 日}$$